

令和5年度 第1回苫小牧市美術博物館協議会

日 時：2023年11月15日（水）

14時00分～14時40分

会 場：苫小牧市美術博物館 1階研修室A

出席委員 内海委員、大塚委員、菊地委員、木村委員、斎野委員、  
田中委員、山田委員、渡邊委員

欠席委員 林委員、中村委員

事務局

（教育部）園田部長

（美術博物館）藤原館長、細矢主査、江崎主査、遠藤主査、岩波学芸員、  
沖津主任学芸員、立石主任学芸員、佐藤学芸員、岡本学芸員

---

1 開会 （進行）江崎主査

2 挨拶 園田教育部長

3 議事

（1）令和4年度事業報告について

（2）その他

斎野会長（議事進行）

議事1「令和4年度事業報告」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

苫小牧市美術博物館「令和4年度事業報告」について、年報に沿って説明します。

最初に「（1）展示事業」について説明します。

「①特別展」については、2本の展覧会を開催しました。

1 本目の特別展「芸術の都ウィーンとデザインの潮流」は、トヨタ自動車北海道㈱の創業30周年記念事業の一環として実施しました。トヨタ自動車北海道との共催により、東京藝術大学の佐藤直樹先生を監修者に迎えました。本展でのクリムト、シーレ、ココシュカといったウィーン世紀末の巨匠の作品を愛知県内の美術館などから借用しました。関連行事として、内覧会及び監修者を招き、記念講演会等を実施しました。

2 本目の特別展は「谷内六郎」展です。谷内六郎の壁画《芽の出る音》設置50周年を記念し開催した本展では、横須賀美術館などから約60点の作品を借用し、谷内の作品世界を紹介しました。関連行事として、図書館と連携した展示や朗読会を実施するとともに、谷内の絵の中のモチーフとして登場する、昭和時代の昔懐かしい調度品を館内にて紹介しました。

次に「②企画展」は、3本の展覧会を実施しました。

1 本目の「アイヌ刀」展では、アイヌ民族にとっての刀の位置づけをはじめ、アイヌ刀と日本刀の違い、そして、和人とのつながりについて紹介しました。

2 本目の「あみゅー大博覧会 2022」では、当館所蔵の各分野の収蔵資料について、「エピソード」、「学芸員お気に入りの資料」など5つのテーマに分けて紹介しました。

3 本目の「能登正智」展では、戦後の苫小牧における文化芸術において中心的な役割を果たした能登の生誕100年を記念し、多様な表現手法を試みた画家の初期から晩年に至るまでの作品を紹介しました。

なお、各展覧会の関連行事については、感染防止の観点から、展示室での解説は実施せず、研修室内でスライドトークを実施しました。加えて、アイヌ刀展では、外部講師として北海道博物館から学芸員を招き講演会を実施、そして、苫小牧アイヌ協会の協力により、舞踊リムセを披露しました。また、能登展では、美術館友の会との共催により、「絵画鑑賞会」を実施しました。

次に「③収蔵品展」では、「動物の絵」をテーマに、私たちの暮らしにもなじみ深い身近な動物が描かれた作品、当館所蔵の美術作品の中から選出しました。

「④中庭展示」では、石狩市在住の美術家・川上りえ氏に、中庭展示スペースの空間に併せた新作を制作していただき、天秤を彷彿とさせるステンレス製の大型作品を紹介しました。

「⑤他機連携による展示」としては、それぞれ、当館の1階ロビーと鳥獣保護センターにおいて、2件の自然史関連の展示を実施しました。

続いて「(1) 教育普及事業」について、説明します。

「①通年プログラム」では、4本の事業を実施しました。

各分野の専門講師を招き、登録制の講座シリーズ「美術博物館大学講座」では、9講座を実施し、86名の方々が登録者しました。

このほか「通年プログラム」として、NPO 法人樽前 arty プラスとの共催で実施している、子ども広報部「びとこま」をはじめ、古文書解読講座、考古学講座を実施しました。

次に、「②体験プログラム」として、当館により親しんでいただくことを目的に、例年、様々なプログラムを実施しています。

3年振りの実施となった「美術博物館祭 2022」では、札幌在住の美術家を講師に迎え、ワークショップをはじめ、同時開催のアートフェスティバルと連携した各種プログラムを実施しました。

「ミュージアムラボ」では、中庭展示でも出品した川上りえ氏を講師に招き、造形ワークショップをはじめ、当館学芸員が講師を務め、「紙ぞうり編み」、「書初め」を実施しました。

また、「無料観覧日」は、感染対策を余儀なくされたことから、5月5日「こどもの日」は、展示事業の無料観覧のみの実施とし、11月3日「文化の日」については、常設展示室を活用した謎解きや、発掘調査の最新情報の成果展示など、ご覧の4本のプログラムを実施しました。

このほか、「体験プログラム」として、「歴史見学会」、「自然観察会」、「遺跡報告会」を実施しました。

「③学校連携プログラム」では、市内小学校23校の4年生を主な対象とした「郷土学

習」をはじめ、国立科学博物館などとの共催による「教員のための博物館の日」のほか、美術作品の興味関心を高める「アウトリーチ事業」2件、「総合学習・職場体験」4件を実施した外、「学芸員実習の受入」では、5名の大学生を受け入れました。

また、「④その他の教育普及事業」については、例年、要望に応じて随時、学芸員が各所へ出向く「出前講座」などを実施しました。

令和4年度の「出前講座」では、「苫小牧の歴史」を中心に、6講座を実施、「講師派遣・総合学習」では、10件を実施しました。その内訳は、歴史が4件、自然史が5件、考古が1件という内容です。

また、アイヌ民族の歴史や文化に対する市民の理解を深めることを主な目的として実施している「苫小牧市アイヌ政策推進事業」については、北海道博物館より講師を招き、2件の講演会を実施しました。

続いて「(3) 資料の収集・保存」について説明します。

「①資料の増加状況」について、令和4年度は、9件の収蔵があり、その内訳は、自然6件、芸術が3件となっています。その内容は、外国産の蝶の標本6点と、郷土の画家・遠藤ミマンの絵画作品3点です。

次に「③利用状況」について、「資料調査」としては、北海道博物館をはじめ函館大学などの大学機関、東京文化財研究所など、あわせて8件の調査を受け入れました。また、「館外貸出」については、合計6件となっています。

「館外貸し出し以外の利用」については、主にデータの提供、複写、模写等がその内訳となりますが、株式会社や個人、テレビや新聞社などのメディアなどが主な対象となっており、新聞、TV、雑誌、教科書、漫画等への写真提供などがその主な内訳となります。

続いて「(4) 調査・研究活動」については、各分野の学芸員がそれぞれテーマを設けて調査研究に取り組んでいます。

当館では「広報・CS 向上」として、広報及び顧客満足度の向上のため、印刷物の発行、配布、公式ホームページ及びSNSの運営、さらには新聞、テレビ等各種メディアへの情報発信を行っています。

①「印刷物の発行」の「逐次刊行物」として、年報、紀要、美術博物館だより、「その他の印刷物」として、年間スケジュール、各種展示会のチラシ・ポスターなどの広報印刷物や報告書、図録などを発行しています。令和4年度の内訳としては、「能登展」で図録を発行、「芸術の都ウィーン展」及び「あみゅー大博覧会」で報告書として小冊子を発行しました。このほか、子ども広報部「びとこま」での取材活動を編集した広報誌の32号も発行しています。

また、「②各展覧会におけるポスター・チラシの配布」については、例年通り、展覧会ごとにポスター・チラシを作成のうえ配布しています。

③から⑦の項目については、Web上での広報活動の説明となり、当館公式ホームページの更新のほか、Facebook、X（旧ツイッター）などで周知に努めているところです。ちなみに2023年11月10日現在、Facebookのフォロワー数は492人、Xのフォロワー数は1,190人となっています。なお、「学芸員の生きもの情報ブログ」では、自然史関連の情報の発信を継続しています。

続いて、「(6) 市民協働」ですが、「博物館友の会」、「美術館友の会」、「郷土文化研究会」、「縄文会」を登録団体として支援、協働を行いました。また、当館では展示室の監視について、ボランティアに協力をいただき、そちらの研修についても、実施しました。例年、各特別展、企画展ごとに展示解説を行っております。

続いて、「(7) 埋蔵文化財の保護」については、遺跡パトロールの実施をはじめ、事前協議・調査・立会 15 件、遺跡の所在に関する問い合わせ対応 87 件、市内遺跡発掘調査等事業の実施については、宮の森市道、糸井地区、苫東柏原地区を対象に行いました。

続いて、「(8) 展示室貸出事業」については、ご覧の 5 件について、貸出を実施しました。また、「(9) 大会への参加事業・研修」、「(10) 市史編纂事業」についても実施しています。

最後に、令和 4 年度の入館者数ですが、「個人」が 33,234 人、団体が 1,939 人、合計 35,173 人でした。

令和 3 年度が 18,362 人であったことから、前年の倍近くの方々に来館いただいております。コロナ禍に比べて少しずつ当館に足を運んでいただける状況に戻りつつあることがわかります。このことについては、特別展「芸術の都ウィーンとデザインの潮流」が観覧無料であったことも、少なからず観覧者の増加に影響を与えたものと考えられます。

引き続き「令和 4 年度 勇武津資料館事業報告」ですが、2つの大きな柱である教育普及事業並びに学習・文化活動の支援について実施しました。

以上で、度美術博物館及び勇武津資料館の令和 4 年度事業報告の説明を終わります。

## <質疑応答>

### 議長

委員の皆様からご意見・ご質問はございますか。

### 委員

2 点ほど要望と質問をお願いいたします。

1 点目は、展示室の貸出事業ですが、今年は 11 月の「広報とまこまい」に出ました。申込が 11 月末までという形で毎年、貸出事業しています。ここでお願いですが、貸出事業を一番使っているのが多分、苫小牧市美術協会、その次に美術館友の会だと思いますが、両方とも市の助成金を申請して、半額助成の形で貸出事業の費用に充てている実態があります。

例年だと 3 月中旬・下旬から 4 月中旬という形で貸出事業をやっている、昨年 5 件事業をやられているのですが、まず要望として 1 つは、申込の時期が遅すぎると思われます。今年は 11 月ですが、実質決定するのが 12 月ということで、申請時期を少しでも早めていただきたいと思います。

それから、貸出期間ですが、助成金をいただく事業で申し込んでいるのですが、毎年、助成金の申請が 2 月で終わっています。今年の申請ですと 3 月 30 日から 4 月 14 日までと実質 2 週間ですから、今年いくつ申請があるのかわかりませんが、2 週間では短すぎる

というふうに思われます。これの改善を是非お願いしたいと思います。

それからもう 1 点、美術の常設展示についてですが、今年度、美術博物館として 10 年経ちました。あくまでも私の考えですが、美術館が併設されたのであって、博物館が増設されたのではないと思っています。それなのに、どうして美術の常設展示ができていないのか疑問に思っております。以上です。

議長

事務局から何か、説明か回答あれば

館長

それではまず、1 点目の展示室の貸出事業でございますが、例年先ほど委員もおっしゃられたように 3 月中旬・下旬から 4 月中旬にかけて、ここ数年は貸出ししているところでございます。時期的には 3 週間程度、前には 2 週間程度で貸出という時期もあったのですが、企画展・特別展の合間をぬって市民の皆様にもお使いいただけるようにということで事業が行われております。

委員の方から期間を長くしてほしいということと、申込時期を早めてほしいという 2 点だったと思いますが、まず貸出時期につきましては、昨年度は 12 月の広報に載せて、昨年の申込いただいた方から「もう少し早くできないか」という、お話をいただきました。

今年度は、1 か月前倒しということではあったのですが、展覧会が決定してどこにどういうものを飾ろうとか、そういうことを考える期間が長ければ長いほど確かに良いのだろうなど。ただ、広報の締切り時期ですが、これは広報が発表する 2 か月前には締切られるのが現状なので、いつ貸出できるっていうのを考えながら、もう少し早められるのであれば早める形で、皆さんに気持ちよく使っていただけるよう考えていきたいと思っております。

次に、常設展示の関係ですが、美術館がここに増設されて 10 年たったのに美術の展示がないのはどうしてかというお話かなと思います。もともとここは博物館として開館しまして、10 年前に展示室を新たにここに併設・設置するかたちになっております。そのなかで、常に美術作品を展示するというのは、当初のところではちょっとできていない部分はあったのかなと思います。ただ、展覧会としましては、毎年複数回設けて美術作品にふれる機会をということで、この 10 年間取り組んできたところでございます。昨年 3 月の予算委員会でも議員から同じような質問がありました。第一展示室をもともと美術館として設置したのだから、そこは展示室として使うべきじゃないかというご意見をいただきました。その展示室につきましては、いろんな企画展等にあわせて活用させていただいているので、そこは常設として使用するの難しい。ただ一方で、美術作品を常にふれる機会というのを検討した中で、博物館の常設展示室の中の一部スペースに絵画作品を常時展示しているというところでは、改善が進んでいるところでございます。

おそらく、立ち上げ当時から色々なことがあったと思いますが、美術作品を満足に触れることができるスペースを求められているのかなと思いますが、現状そこまで進んでいないというのが実情です。ただ、そういう声も、美術館友の会の方だけではなく、あると思います。その部分につきましては、こちらの常設展示室を含めた中で、もう少し美術作品

に触れるスペースを増やせないかということは、検討していきたいと考えております。

議長

はい、ありがとうございます。委員よろしいでしょうか。

委員

美術館（美術博物館）に常設展示室がないというとは、不思議なことではないのでしょうか。

議長

たとえば特別展と企画展で5つありましたけれども、特別展と企画展で大体、年間埋まっているのですね、隙間がないと思います。この5つの特別展・企画展のうち4つが美術なんですよ。

委員

議長すみません、そういうことではなくて、苫小牧市に美術館がないということで、10年前に美術館ができました。形からしたら博物館があった横に美術館を増設しました。では、10年前に美術館ができました、携わった者としては、美術館ができたのに美術品の常設展がない、これが10年経った現実なんですよ。

去年、議会でも常設展示がないのはどうしてか、という質問も出てきているわけです。

諸般の事情はよくわかります。企画展・特別展もご苦労されてやっている。年によっては半分以上が美術展をやっているのはよくわかります。原点に立ち返って、せっかく美術館ができたのに、どうして美術の常設室がないのでしょうかと。本当に素朴な疑問を持ちませんか。

逆にそういう意見が少ないのであれば、それはそれでやむを得ないかと思いますが。

館長

私も当時、ここにいたわけではないので、はっきりとしたことは言えないのですが、美術館を作るには多額な費用がかかる。その中で博物館に美術館を増設して美術博物館として美術に触れる機会を作る。そういう中で今の形になったと思います。その時に常設の美術室を新たに作るとなれば、空調管理など非常に高額な費用がかかる、その中でこういう方になったと。ただ現状を踏まえた中で収蔵作品もある、今すぐにとすることは難しいですけれども、そういう作品に触れる機会を増やすことはできる可能性があるのではと思っています。

議長

なにかご意見はありませんか。

美術館という館ではなくて、博物館に美術の展示を併せ持つという複合施設として付加したようなイメージがあるので、なかなか美術の常設展示はいろいろと制約があるのでしようけれども、先ほど館長が言われたようになんらかの形で年間、美術品に触れることが

できるような方法を模索してきたいというような話もありましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 委員

美術館（美術博物館）は、そういった目的でできたと思ひていたが、もし美術品を展示するためには、もう一度、独立した美術館を作るかと、極論ですけれども、この理想を実現するとなれば全く新しい別の敷地に独立した美術館を立ち上げなければならない、おそらく美術の常設展示室はできないだろうというお話で、これからも行くだろうと思ひます。今この場でお話することではないですけれども、私の心の意見として申し上げました。ありがとうございます。

#### 議長

長い間、美術館を建てて欲しいという美術の好きな人と市民の声があったと思ひますよ。そういう人がたくさんいまして美術館建設基金というところにお金が集まったんですけど、美術館を建てるほどにはならないと思ひますよね。市が単独で美術館を建てるかという予算もなかったので、お金は集まる、市民の声は高まる、その中で、折角立派な博物館があるから、そこに増築して美術展示をする場所を作ろうかということなんだろうと思ひます。委員が言うように常設展示をやるなら、まったく別の美術館を作るか、もっと広げて、博物館の企画展もできるし、美術の常設展示もできるという美術スペースができればいいんですけど。常設面積がもっと広げれば、違ったかもしれないけど、現状では、なかなか難しいですけれども、先ほど、館長が言ったように、常時美術品に接する機会をなんらかの形でつくかどうか検討していただくということで、美術館友の会の人たちとも相談しながら、考えてください。ありがとうございます。

#### 会長

なければ事務局から他に何かありますか。

#### 館長

最後に「事業評価報告書」の作成にあたってのご協力について説明します。

自己評価報告書は、自分たちの活動を振り返り、課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるために実施しているものです。

一次評価として我々自ら、評価指標や具体的な取組内容を元に評価を行います。その評価結果を委員の皆様へ提出させていただき、皆様の目線でチェックいただきたいと考えています。以上、よろしくお願ひいたします。

#### 議長

そのほか、何かありませんか。その他ないようですので、以上をもちまして第1回美術博物館協議会は終了いたします。どうもお疲れ様でございました。